

寺家エリアコンセプト素案

1. エリアコンセプト素案の位置づけ

目的

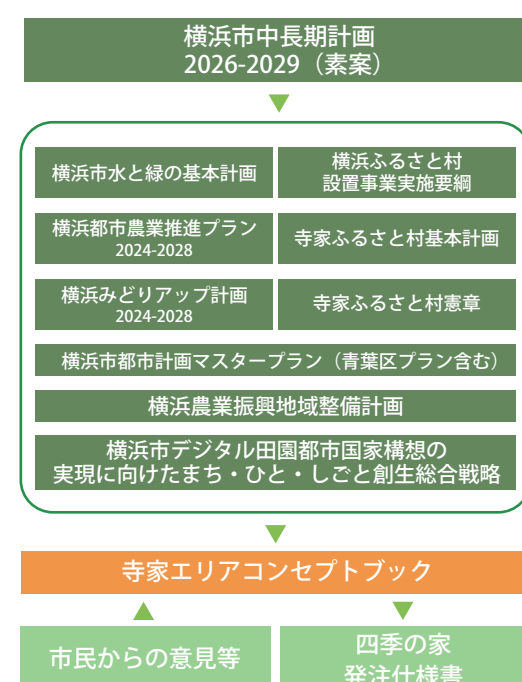
本エリアコンセプト素案は、寺家エリアの地域づくりに関する共通理解を形成することを目的として作成するものである。四季の家を含む寺家エリアの現状・課題を整理するとともに、地域の価値を将来にわたって継承するために必要な仕組みや体制の更新、周辺地域や市全体との連携を見据えた視点で作成する。

対象エリア

寺家町を中心とする寺家エリアを対象としながら、当エリアが周辺地域や青葉区全体に提供している価値や関係性にも着目する。



上位計画・関連計画



2. エリアの現状と分析

a 寺家ふるさと村とは

横浜市内の貴重な田園風景や雑木林などの自然環境を保全し、地域農業の振興を図るとともに、市民に親しまれる憩いの場を提供することを目的として昭和58年に指定された。地域住民と都市住民の交流促進や、環境教育、自然観察の場としても機能している。総合案内所の四季の家のほか、釣り堀、ため池などがある。

b 農業、地産地消

エリア内に直売所が多くあり、新鮮な旬の農産物を手に入れることができる。また、地域の地産地消を広めることを目的とした「JIKE マルシェ」が令和4年から開催されており、来場者数も増加している。

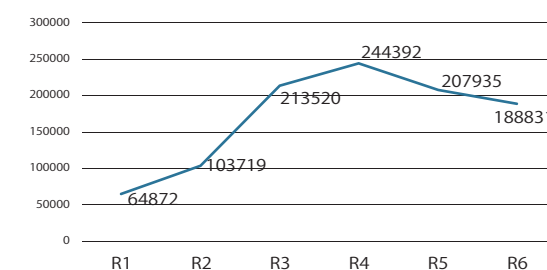
c 里山、自然環境

「横浜みどりアップ計画」における「緑の10大拠点」の一つとして保全され、水田、樹林地、ため池などが一体となり、四季折々の生き物や自然体験が楽しめる都市近郊の緑の拠点である。

d 地域における多様な活動

里山保全・農業・環境美化など多様な活動が展開されている。近年は行政・町内会・四季の家が連携し、ホタルが飛ぶ時期に路上駐車対策を実施するなど、地域一体となった取組も進んでいる。

四季の家年間利用者数の推移



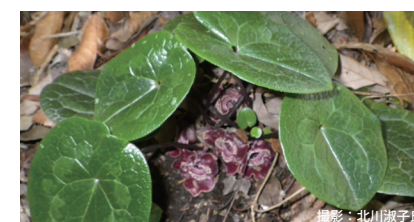
寺家ふるさと村の風景



JIKE マルシェの様子



寺家エリア内にある農産物直売所



タマノカンアオイ ※絶滅危惧Ⅱ類



アオバスク



子どもたちによる田植え作業



蛍の時期の路上駐車対策

3-1. 将来像の方向性

a エリアコンセプト

変化する環境に柔軟に対応し寺家エリアの本質的な魅力を育て未来につなぐ

寺家エリアは、歴史・文化・自然・農の営みなど、横浜にとって重要な地域資源を有しており、その価値を未来へ継承していくことが求められている。そのため、社会環境の変化に柔軟に対応しながら、地域住民・行政・事業者が協働し、環境・社会・経済の観点から持続可能に機能する「里山エコシステム」を構築することが望まれる。エコシステムは本来、生きものと自然環境が支え合う循環を指すが、ここでは寺家らしい自然・農・人の営みが相互に支え合う社会・経済的な循環として捉え、地域の価値を育て続ける基盤と位置付ける。

こうした取組を支える拠点として四季の家の機能や体制を見直すとともに、寺家エリア全体の運営体制や仕組みを再整理し、地域価値を守り育てるための新たな方向性を示す。

b エリアコンセプトの実現に向けた方向性

方向性①

多様な人々・多世代が支え合う健康で心豊かな暮らし

地域の日常に農や自然が寄り添う環境の中で、より様々な世代が学び・働き・交流し、心身の健康と生きがいが育まれる「ウェルビーイングな暮らし」を実現する。

方向性②

地域資源と多様なネットワークを活かしたヒト・モノ・経済の循環

農業生産基盤の維持や農業経営の向上を図るとともに、自然・農・文化といった地域の魅力を生かした体験や食の価値を高めていく。来訪者との交流や地域共生観光などを通して、地域資源を守りながら、経済が循環する仕組みをつくっていく。

方向性③

農ある空間の維持と活用

生物多様性の向上とグリーンインフラの形成を目指し、農地・樹林地・ため池などの里山環境や四季の家などを公共ストックとして活かし、景観・生態系・農業の営みを一体的に守り育てる。

方向性④

持続可能な地域を支える共創のまちづくり

多様な主体が連携し、地域の価値を将来へと受け継ぐための仕組みや体制づくりを推進する。

3-2. 分野別の取組アイデア

分野	取組アイデア
 住まい	・身近な農ある暮らし、都市農業を楽しむライフスタイルの啓発 ・若年層・ファミリー層の流入促進のため、寺家周辺エリアの団地・戸建物件の再価値化 ・ウォーカーブルシティとしての機能向上（歩道や駐車場の整備、マナー） ・防犯体制の確立
 働く	・地域で働く場・機会の創出と環境整備 ・職住近接・一体のライフライフスタイルの啓発（クリエイター、農業、福祉など） ・都市農業の持続可能な発展と担い手育成
 子育て・教育	・良好な子育て環境の創出 ・自然豊かな環境で子育てを楽しむライフスタイル ・教育機関（小中高・大学）との域内連携を深め、地域課題解決や新たな事業につながる機会を創出 ・多様な世代が集い、交流する場の創出
 健康長寿 ウェルビーイング	・多様な世代の健康増進 ・既存のスポーツ施設、周辺エリアの組織や機関と連携した健康長寿延伸の取組 ・健康長寿に向けた体験プログラムや講座などの取組の促進 ・農や里山を活用した住民の健康増進の取組の促進
 農と食の振興	・地産地消の推進、6次産業化（食・発酵・特産品の開発）の促進 ・農に触れる環境整備の促進 ・アグリツーリズム、農体験を通じた研修施設 ・農地保全の仕組みづくり
 グリーンインフラ	・地域団体や企業、行政が連携する防災 ・生態系機能を持つ魅力的なみどりや、快適な水辺空間の創出 ・樹林地 / 農地の保全活用、山の保水能力の維持
 カーボンクレジット ネイチャーポジティブ	・里山環境・生物多様性を守る取組の推進 ・環境と調和する持続可能な都市の構築 ・景観保全の仕組みづくり ・GREEN EXPO 2027 のレガシー継承
 デジタル技術 (交通・高齢者支援・農業など)	・農業や農業経営へのIT先端技術の導入 ・データ解析やSNS活用による里山の保全 ・スマートモビリティなどの先端技術を活用した域内交通の充実 ・高齢者の見守り・生活支援・介護予防・認知症の早期発見
 地域共生観光	・来訪者、地域住民への効果的なプロモーションの推進 ・オーバーツーリズムによるマナー・ルール違反への対応 ・歴史・文化・芸術・伝統に触れる機会をつくり、まちへの愛着、誇りを高める ・デジタル技術と自然体験、アートの組合せなど、従来の体験活動の質を高める取組を促進
 地域経済の循環	・地域経済の循環を生み出す地づくり ・事業者、挑戦者または新規事業や新業態を応援する機運醸成 ・雇用の創出 ・公共ストックの活用、未利用地の活用など土地活用の可能性の拡大
 ローカル都市経営	・住民のQOLの向上 ・地域にふさわしい民有地等の計画的な土地利用 ・エリアマネジメントの仕組みづくり ・寺家ふるさと村のリブランディングと発信
 共創の推進	・地縁型・テーマ型コミュニティ活動の促進 ・公共空間の管理・活用への住民参加の促進、企業連携 ・地域コミュニティのハブとしての四季の家の機能強化 ・ステークホルダーとの連携を図り、公共空間や既存施設の再整備や適切な管理・活用を推進

4. エリアマネジメント

・基本的な考え方

地元プレイヤー、四季の家、横浜市、近隣関係者等で構成されたグループが寺家エリアの地域振興を牽引することが想定される。
これからのエリアマネジメント体制を考えるうえでは、既存の組織・関係者との連携や調整を図りながら、エリア内外の産官学民の各主体が関わることによって、地域の活性化や新たな産業の創出、関係人口の創出などにつながるよう、体制を検討していく必要がある。

・事業のアイデア

寺家エリアにおける持続可能な里山エコシステムの構築に向けて、農・里山と様々なテーマ・領域の取組（教育や福祉、就労など）との掛け合わせによって、事業者や市民が参画しやすい事業のアイデアを以下に例示する。

アイデア① 農ある暮らし × 地域ウェルビーイングモデル

農の取組を仕事や就労機会、ビジネスと結びつけながら、ウェルビーイングな農ある暮らしを実現していく。

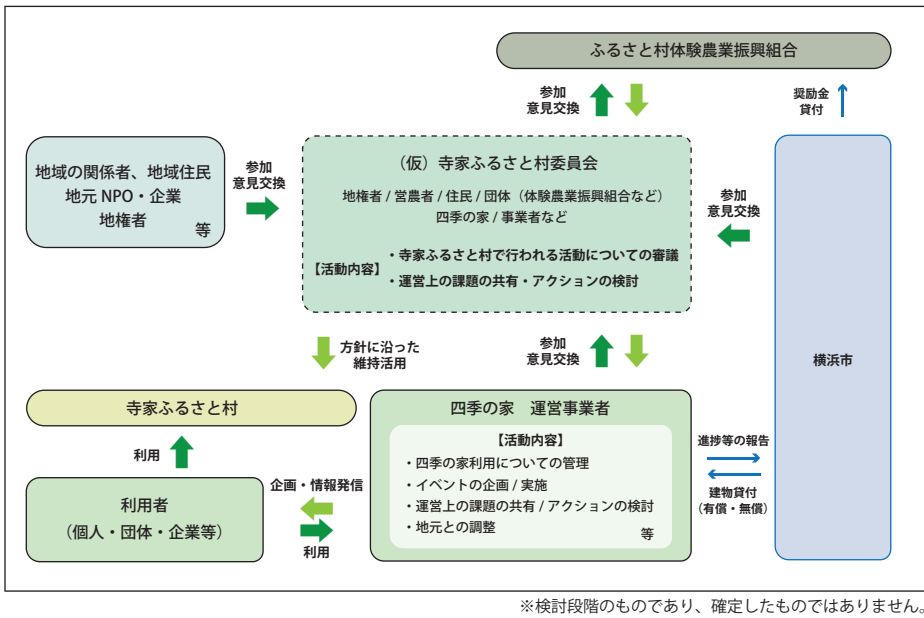
アイデア② 都市近郊における農・里山の環境を生かした自然共生モデル

鶴見川流域を含め、豊かな自然環境を生かしてグリーンインフラやカーボンポジティブの取組などを推進していく。

アイデア③ 滞在・回遊を生み出す地域共生観光モデル

寺家エリアの資源や地域性を生かしたアクティビティや宿泊、ウェルネスの機会などを通じて体験的価値を提供していく。

・体制イメージ



5. スケジュール

令和7年度	エリアコンセプト素案の完成
令和8年度	四季の家サウンディング調査（2回目） エリアコンセプトブック素案の意見照会 エリアコンセプトブックの完成

これからの四季の家に求められる機能

・基本的な考え方

「エリアコンセプト」及び「エリアコンセプトの実現に向けた方向性」を実現する拠点として四季の家の機能や役割、運営体制を見直す。

・事業のアイデア

四季の家が今後担うべき新たな役割を踏まえ、地域資源を生かした学び・体験、地域経済の循環、地域の活動や利用を支える取組など、以下は事業者が検討し得るアイデア例を示したものである。

アイデア①

里山と農ある暮らしの“学びと体験の拠点”

例：自然観察会、稲作体験、樹林地での探究学習など教育プログラムの拡充、ジュニアレンジャーやボランティア育成、里山保全の学習拠点、農業者・学校・市民の協働による体験機会の創出など

アイデア②

地域資源を活かした“循環型ローカルエコノミーの拠点”

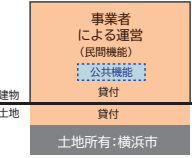
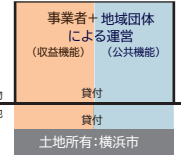
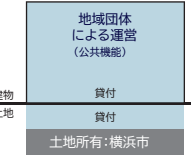
例：地元農産物・加工品の販売（直売所、ファーマーズマーケット等）、地産地消カフェ／レストラン、ポップアップショップ、シェアキッチン、農福連携の拠点など

アイデア③

寺家ふるさと村の“玄関口・マネジメント拠点”

例：ふるさと村全体の回遊（飲食・農地・樹林地・文化拠点）をつなぐ情報発信、ため池・農地・樹林地など周辺エリアとの利用調整拠点

・事業スキーム

パターン	①事業者運営	②事業者＋地域団体	③地域団体
概要	事業者が単独で管理運営を実施	事業者と地域団体が共同で管理運営を実施	地域団体が管理運営を実施
イメージ			
建物 / 土地の所有・権利			

※今後の検討状況等により、変更が生じる可能性があります。